

# 「流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題」

～陸域から内湾（湖沼）までを俯瞰的に理解する

第4回：漂流・漂着ゴミ—研究の最前線と今後の課題～

主催：土木学会水工学委員会環境水理部会／水環境学会ノンポイント汚染研究委員会／  
海岸工学委員会沿岸域研究連携推進小委員会

**趣 旨**：本シンポジウムでは「流域圏の物質輸送」という観点から、漂流・漂着ゴミに関する最新の研究成果や近年の震災・豪雨等の自然災害の経験から浮かび上がってきた課題と将来の方向性（研究、行政、市民活動）について議論する。

なお、本シンポジウムは「第一回：微細土砂」、「第二回：栄養塩・有機物」、「第三回：がれき・放射性物質」と開催されており、今回で第四回を迎える。

（詳しくは、<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kankyousuiri/>をご参照ください。）

日 時： 2013年12月12日(木) 13:00～17:40

場 所：首都大秋葉原キャンパス・秋葉原ダイビル 12F (JR 秋葉原駅より徒歩1分)  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12階  
[http://www.tmu.ac.jp/university/campus\\_guide/access.html](http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html)

参加費：1500円（定員80名）

参加申込：首都大学東京・横山研究室（担当：舩崎，Email：[masuzaki-yumiko@tmu.ac.jp](mailto:masuzaki-yumiko@tmu.ac.jp)）  
注）参加申し込みは事前にE-mailでお願いします。

当日参加も可能ですが、定員となり次第申込受付を締切とさせていただきます。

お問合せ：名古屋大学・田代 喬（Email：[d42882a@cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:d42882a@cc.nagoya-u.ac.jp)）

## 【プログラム】

13:00～13:05 開会挨拶 角哲也（環境水理部会長・京都大学）

13:05～13:10 趣旨説明 日向博文（国土技術政策総合研究所）

### **PART1 研究最前線—化学汚染** 司会：赤松良久（山口大学）

13:10～13:35 「インターナショナルペレットウォッチ：  
化学汚染物質の輸送媒体としての海洋プラスチック」高田秀重（東京農工大学）

13:35～14:00 「化学汚染物質の輸送媒体としての漂流ゴミ／  
プラスチックごみ由来の重金属定量」中島悦子（高知県梶原町）

14:00～14:10 休憩

### **PART2 研究最前線—輸送動態** 司会：横山勝英（首都大学東京）

14:10～14:35 「東アジア海域における海ゴミ輸送の実態」加古真一郎（鹿児島大学）

14:35～15:00 「河川からの沿岸へのフラックス」二瓶泰雄（東京理科大学）

15:00～15:25 「出水時における流木の発生  
～平成24年7月の九州北部豪雨について～」矢野真一郎（九州大学）

15:25～15:50 「海岸漂着ゴミの滞留時間と海岸清掃の効果」片岡智哉（国土技術政策総合研究所）

15:50～16:00 休憩

### **PART3 今後の課題と方針** 司会：日向博文（国土技術政策総合研究所）

16:00～16:25 「漂流漂着ゴミ対策—国内・国際的な視点から」多田佐和子（環境省・海洋環境室）

16:25～16:50 「広域的、地域的な視点からみたNGO/NPOが担う役割」金子博（JEAN）

16:50～17:15 「漂流漂着ゴミ対策—今後の研究の方向性」磯辺篤彦（愛媛大学）

17:15～17:35 総合討論

17:35～17:40 閉会挨拶 重松孝昌（大阪市立大学）